

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 57号

2013/07/15 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：相場は3週連続で上昇傾向。

①週最高：LDN 市場 £1,549 / NY 市場 \$2,239 (7/11)	先週比 LDN+£17/NY+\$9
②週最低：LDN 市場 £1,508 / NY 市場 \$2,174 (7/8)	先週比 LDN+£56/NY+\$15
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £41 (傾向↑) / NY 市場 \$65 (傾向↑)	
週内建玉推移：LDN 市場 235,849 枚⇒219,798 枚	-16,051 枚
NY 市場 180,602 枚⇒174,743 枚	-5,859 枚

【7月8日(月)】小幅続落

ニューヨーク市場のココア先物は、もみ合いとなる中、小幅安で引けた。だが先週の上昇後、6月半ば以来の高値に手が届く位置にとどまっている。

コートジボワールのカカオ豆の生産地域の大半で先週は雨量が少なかったことから、4～9月のミッドクロップの豊作予想が強まり、農家も豆の大きさが今後2カ月で急速に成長すると予想している。

一方、コートジボワールの気温低下により、カカオ豆の病気に関する懸念も浮上している。

ニューヨーク市場の9月きりは30ドル(1.4%)安の**2174ドル**、ロンドン市場の9月きりは18ポンド(1.2%)安の**1508ポンド**と、いずれも小幅続落で引けた。

【7月9日(火)】両市場とも反発＝西アフリカの天候背景に

西アフリカ諸国がカカオ豆の生育に好ましくない天候に見舞われ供給への懸念が一部で台頭したことを背景に、両市場ともに反発した。

ニューヨーク市場の9月きりは12ドル(0.6%)高の2186ドル、ロンドン市場の9月きりは18ポンド(1.2%)高の1526ポンドで終了した。マッコーリーのアナリスト、コナ・ヘイク氏は「天候問題が改めて表面化している。最近の着サヤ数の確認でも、新年度のメインクロップに乾燥天候のリスクが台頭していることが示唆されており、7～8月の降水パターンをしっかりと見極める必要がある」と指摘した。

【7月10日（水）】両市場とも反落＝西アフリカの天候懸念後退で

西アフリカ諸国の天候懸念後退を背景に、両市場ともに反落した。

ニューヨーク市場の9月きりは8ドル（0.4%）安の2178ドル、ロンドン市場の9月きりは10ポンド（0.7%）安の1516ポンドでそれぞれ取引を終えた。

6月のコートジボワールの天候が非常に乾燥していたことから、ココアは堅調に推移。5日にはニューヨーク市場で2250ドル、ロンドン市場で1547ポンドを付けていた。ディーラーは来週発表される第2四半期の欧州カカオ豆圧砕高統計に注目している。

【7月11日（木）】両市場とも反発

両市場とも反発。

ニューヨーク市場の9月きりは、61ドル（2.8%）高の2239ドルで引けた。英ポンドが対ドルで上昇したことが背景。

ディーラーによると、市場は来週発表される第2四半期のカカオ豆圧砕高統計に注目し始めている。15日に発表される欧州カカオ豆圧砕高統計は、低調だった前年から5～10%増加すると予想されている。また、18日に発表される北米の四半期圧砕高統計は前年比2～5%増となる見込み。

ロンドン市場の9月きりは33ポンド（2.2%）高の1549ポンドで終了。終値ベースでは6月12日以来の高値だった。

【7月12日（金）】両市場とも小反落＝値固め局面入り

市場とも小反落。最近の上昇を受け、値固め局面に入った。

ニューヨーク市場の9月きりは、3ドル（0.1%）安の2236ドルで引けた。一時は、6月中旬以来の高値となる2260ドルまで上昇していた。前日の上昇を受け、相場は値固め局面に入った。

この日は下落したが、週間ベースでは3週続伸となった。ディーラーらによると、市場は15日に発表される欧州カカオ豆圧砕高統計に注目しており、事前予想では低調だった前年に比べ5～10%増となる見込み。18日には北米の四半期圧砕高統計が発表される予定で、事前予想では前年比2～5%増となる見込み。ロンドン市場の9月きりは、4ポンド（0.3%）安の1545ポンドで終了した。一時は1カ月ぶり高水準となる1562ポンドを付けた。週間ベースでは3週続伸した

2、ミッドクロップ期カカオ豆、降雨で豊作予想高まる＝コートジボワール（7/9）

コートジボワールのカカオ豆のミッドクロップ期（4～9月）は、先週主産地で小雨が降ったことを受け、豊作になるとの見方が強まった。一方、気温低下に伴い、病気発生を不安視する向きもある。

収穫開始は、今年初めに高温乾燥天候が数カ月続いた影響で遅れたが、1カ月余りにわたって雨量が平年並みとなった点を踏まえ、農家は今後2カ月間に豆のサイズが急速に改善されるとみている。

複数のトレーダーや輸出業者によるミッドクロップの収穫量見通しは約40万トン。

カカオ豆生産ベルトの中心に位置する西部スプレの農家は、2度の小雨が多数の小ぶりのカカオポッドの成長を促進したが、日照不足が懸念されると語った。

また、同国カカオ豆生産量の4分の1を占める西部ダロアの農家は、作物に有益な小雨が降ったが、気温低下を不安視しているとコメントした。同様の状況は、南東部アボイツと東部アベングル、南西沿

岸部のササンドラおよびサンペドロでも報告されている

3、統計：インドネシア銀行発表のカカオ豆輸出数量（7/10）

下記はインドネシア銀行が発表した 2013 年 5 月までの 1 年間の同国のカカオ豆、及びコーヒー豆、パームオイルの輸出数量である。

Month	Palm oil (百万トン)	Cocoa beans (MT)	Coffee beans (MT)
2013 年			
May	1.907	17,000	42,000
April	1.566	16,000	36,000
March	1.529	14,000	31,000
February	1.760	14,000	35,000
January	2.295	14,000	30,000

2012 年			
December	1.833	10,000	34,000
November	2.260	14,000	47,000
October	1.448	9,000	60,000
September	1.853	26,000	69,000
August	1.381	8,000	47,000
July	2.016	15,000	58,000
June	1.076	12,000	38,000
May	1.015	19,000	30,000
April	1.347	9,000	20,000
March	1.718	14,000	15,000
February	1.321	19,000	15,000
January	1.674	16,000	15,000

2012 TOTAL:	18.942	171,000	448,000

4、コートジボワール7月14日までの今シーズンのカカオ豆集荷数量136万トンに(7/15)

今シーズン、コートジボワールの主要な2つの港に集荷されたカカオ豆の数量が7月14日までの合計で1,360,000トンとなり、昨年同時期までの1,282,000トンまでを上回る数字となったことが輸出業者筋などが纏めた統計で判明した。

7月8日～14日までの1週間にアビジャン港と、サンペドロ港の2つに14,000トンの集荷があり、昨シーズンの同週とほぼ同じ数量であった。

5、マレーシアの第2四半期カカオ豆磨砕数量前年対比3.1%減少、豆の供給圧迫で(7/15)

- ・第2四半期のカカオ豆磨砕数量は3.1%の減少で72,191トンに
- ・上期の磨砕数量もインドネシア産カカオ豆の価格が輸出関税の影響で高くなりつつあることを背景に同様に3.1%の減少となった。

マレーシア国内でのカカオ豆磨砕数量が隣国のインドネシアからのカカオの調達が難しくなっていることを理由として前年対比で3.1%減少し、第2四半期内の磨砕数量は72,191トンとなった。

アジア最大のカカオ磨砕国であるマレーシアの磨砕出荷数量が低くなったことが起因し、現在過去4年間で最高のバターレシオがついているココアバターの価格を更に高騰させる可能性もあり、今後供給が心配される。マレーシアは2012年、年間で299,525トンのカカオ豆を磨砕加工した。

マレーシア・ココアボードは、今週月曜日この磨砕数量統計データを発表した。詳細の説明はなかった。しかし、ボードからは、磨砕数量は今年の上半期でも同様に3.1%減少していたことが判明した。

第1四半期の磨砕数量が減少したことと季節的な需要が今年1月は1.90であったココアバターレシオを現在では2.0以上の高い数値に押し上げてきた。

しかし、アジア市場のカカオ磨砕業者は、顧客がココアバター使ったチョコレートからコンパウンドチョコレート（植物油脂とココアパウダーを主原料にしてつくるチョコレート）に移行してしまう事を恐れて更にココアバターレシオを上昇させることは避けるかもしれない。

低い収益性とカカオ豆の調達が困難なことからマレーシアの磨砕業者は生産数量を減らさざるを得ないだろうとディーラー筋は予測している。

マレーシアは、マレーシア国内のカカオ豆採生産数量が国内の磨砕業者の需要に対して非常に少ない為、隣国であるインドネシアからのカカオ豆の需要に依存しているが、インドネシア産カカオは2010年に導入されたカカオ豆輸出税により、以前に比べ輸出用価格が高くなってしまっている状況が続いている。

6、欧州の第1四半期のカカオ豆磨砕数量は前年対比6.1%の上昇(7/15)

- ・磨砕数量の報告を行った磨砕業者は昨年報告時より減少した。
- ・欧州でのカカオ豆磨砕事業の収益性は引き続き厳しい状況が続いている。

欧州の第2四半期のカカオ豆磨砕数量は昨年の同時期の数量と比較し6.1%上昇の310,408トンとなったことが欧州カカオ協会（ベルギー本部）の発表で判明した。

この上昇はトレーダー筋が事前に予測していた4-10%の上昇の範囲内に収まるものであった。

四半期ベースで前年数字を上回るのは2011年の第4四半期以来であるが、今回の上昇は、昨年の磨砕数

量が極端に低い数量であったことに起因している部分が多い。

昨年の第2四半期は、前年対比で17.8%減少の292,551トンで、過去3年間で最も低く、事前の予測を大きく下回った為、カカオ豆のロンドン市場価格が下落する事態となった。

ディーラーによれば、磨砕数量の報告を行った企業が減少したことも第2四半期の磨砕数量が前年対比で小幅な上昇にとどまった要因であるとも説明している。

今回は21社から磨砕数量の報告があり、これは第1四半期に報告を行った企業数と変わらないが、昨年の第2四半期の報告時の25社からは減少している。

今週の関連ニュース) EUで穀物甘味料の使用量拡大へ＝砂糖生産枠制度を見直し

欧州連合(EU)では、砂糖生産枠制度の見直しを受け、ソフトドリンクやアイスクリーム製造で使用する穀物甘味料の量が増える見通しだ。

EUは6月、共通農業政策(CAP)について、砂糖生産の自由化や大規模農家への補助金削減を盛り込んだ抜本的改革案に合意した。穀物甘味料の消費量は約200万トンと、これまでの3倍に達する可能性がある。

*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp